

環境に配慮した宿泊施設普及啓蒙事業

2008 年度助成事業の実施内容および成果

西日本 SHD パートナーズ倶楽部 食と旅支援基金 助成事業

NPO 法人エコロッジ協会

団体について

名称 NPO 法人 エコロッジ協会	代表者 高山 傑	役職 代表理事
住所 〒600-8418 京都市下京区烏丸松原下ル五条烏丸町 400 欧風館 5 階 (京都市下京区骨屋町 329 CASA VERDE 高辻 901 号室) *申請時住所		
TEL: 075-344-5254 高山携帯 090-4309-7973 FAX: 075-344-0518		
E-mail: ecomail@japan-ecolodge.org Home page: www.japan-ecolodge.org		

■助成事業概要

NPO 法人エコロッジ協会は一部の宿泊施設運営者にしか利用されておらず、まずはエコツアーや自然環境教育が実践されている地域を日本全国から洗い出し、そこで利用されている宿泊施設リストを作成。主に環境省で過去 3 年間行われたエコツーリズムモデル地区をはじめ、全国に点在するエコツーリズム協会、旅館・民宿・ユースホステル等の協会を対象に聞き取り調査及び FAX・メールによるアンケート調査を行い、中でも環境に配慮した活動を実践している、または関心を寄せる地域での説明会・研修会等に結び付ける。同時にウェブサイトやニュースレター、ラジオ、旅行雑誌等のメディアを利用して幅広く告知し、オンラインによるチェックリストをより多くの施設運営者に利用を促す。

規模が小さい宿泊施設ほど、環境に対する取組みをしても「自分よがり」としてしか利用者には受け取られず、どこまで本当にエコなのか判別しにくい。特にエコであることが宿泊決定する際に重要視されている場合、他施設との比較が困難な現状を踏まえ、110 項目に及ぶチェックリストの達成度を第 3 者である当協会が開示・推奨することで、利用者の指標と運営者の取組保証をするという点で一挙両得を狙う。

■助成金を使った事業内容詳細

▼2008 年度事業推進会議、ウェブサイト構築協議

- 日時 平成 20 年 4 月 11 日 (金) 10:00-
- 場所 京都事務所
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員

事業推進委員 4 名が京都事務所において事業内容の確認と実施要綱を作成し、役員とボランティアに配布した。ウェブサイト上のオンラインチェックリストのシステム作成についての協議も行った。

▼登録認定制度文書作成、宿泊施設リストアップ

- 日時 平成 20 年 5 月 20 日 (火) 13:00-
- 場所 京都事務所
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員、ボランティア

推進委員 2 名とボランティア 1 名が京都事務所において、ウェブサイトと電話を利用し宿泊施設リストの作成をした。また当日欠席した理事からも電子メールにて施設リストに加えた。

▼登録認定制度文書作成（添付書類：登録認定制度のお知らせ）、ウェブサイト構築協議

- 日時 平成20年5月31日（土）14:00-
- 場所 兵庫県南あわじ市きたや（農家民宿）内
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員、ボランティア、会員

兵庫県淡路島における宿泊研修を兼ねて推進委員2名、ボランティア1名、会員3名で登録認定制度の文書を作成。オンラインチェックリストのシステムの稼働開始に向けてのチェックを行った。

▼登録認定制度文書発送（添付書類：登録認定制度のご案内、）

- 日時 平成20年7月7日（月）
- 場所 京都事務所
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員、ボランティア

推進委員2名とボランティア2名が京都事務所において、47軒の宿泊施設の宛名書きや郵送の手配をした。夕方に発送。オンラインシステムも稼働開始。

▼登録内容確認作業

- 日時 平成20年7月31日（木）10:00-
- 場所 京都事務所
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員

オンラインで登録のあった「白馬の小舎 山木館」「ペンションワンダーランド」「コンドミニウム ハートロック」「知床岩尾別ユース・ホテル」の4軒の登録内容を確認。

▼登録作業（添付：ウェブサイトコピー）、登録証発送手配

- 日時 平成20年8月3日（日）10:00-
- 場所 京都事務所
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員

登録申請のあった4軒に対して登録証を発行、郵送した。

▼エコロッジガイドライン普及啓蒙研修

- 日時 平成20年11月18日（火）15:00-
- 場所 熊本県阿蘇市内牧温泉ホテル角萬 (<http://www.aso.ne.jp/~kadoman/>)
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員、阿蘇地域デザインセンター他
- 参加人数 33名
- 研修内容

1) お得だね、省エネ

地球温暖化が私たちの生活を脅かす・・・から、地球温暖化の仕組み、二酸化炭素排出量、生活改善による省エネ等を通してエコは環境に良いことでもあるし、エコノミー（経済）にも良いことに触れました。

2) エコロッジガイドライン

海外や国内でのエコロッジの傾向、エコロッジ・チェックリストの取り組みのポイントを中心にお話をすすめました。

【1】環境改善は経営改善

【2】チェックリストで現状把握から始めてみる

【3】地域に根ざした特色を出す

3) 登録認定制度と新規客層開拓

世界的にエコロッジとして名が通っているコスタリカのラパ・リオスロッジで宿泊客を対象に実施されたアンケート結果をもとに、環境に優しい宿で集客した場合の客層の意識の高さについてふれました。また、当協会の登録認定制度についての紹介とメリット等は特に関心の高かった内容となりました。

4) 海外先進事例：モンゴル

当協会の海外パートナーであるスリーキャメルロッジの先進事例をご紹介しました。宿の役割をはるかに越えて地域や環境保全に寄与する姿勢、住民との協調性を高く評価しながら多くのスライドを見て頂きました。

5) 海外先進事例：コスタリカ

アンケートで協力頂いたラパ・リオスを中心としたコスタリカにおける先進事例の紹介をしました。CST と呼ばれるコスタリカにおけるエコ宿の認証制度、環境に配慮した設備投資、お客様の満足度を上げる工夫や生態系への配慮を中心としたお話になりました。

▼エコロッジガイドライン普及啓蒙研修

- 日時 平成 20 年 12 月 16 日（火）
- 場所 沖縄県国頭村内
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員、国頭村、国頭村観光協会他
- 参加人数 約 25 名
- 研修内容：阿蘇と同じ

▼登録内容確認・発送作業

- 日時 平成 21 年 2 月 1 日（日）15:00-
- 場所 京都事務所
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員

オンラインで登録のあった「くつろぎの宿 てつ家」の登録内容を確認し、登録証を発送。

▼エコロッジガイドライン普及啓蒙研修

- 日時 平成 21 年 3 月 16 日（月）
- 場所 長野県飯田市ごんべえ邑 (<http://www.iidanet.or.jp/ichiko/gonbei.htm>)
- 参加構成 NPO 法人エコロッジ協会助成事業推進委員、飯田市観光課エコツーリズム係
- 参加人数 約 30 名
- 研修内容：阿蘇、国頭と同じ内容及び後半は施設サステナビリティチェック

研修会の後半は実際に施設を歩き、環境に配慮した施設にするにはどんな場所をいかに変更するのか、また、経済的に負担のない形でどこまで出来るか等、いつもと違った視点で宿泊施設を見ました。まずは外の作業場にある蛍光灯、5メートルほどの空間に 80 ワット(40×2)が 5 個ありました。照度は十分に取れるので蛍光管の間引きや反射板の応用、設置位置をもっと作業台に近づける等の案がでま

した。また、見えないところでは、安定器も電気を消費しており、旧式のものはその消費量が現行のものの数倍をいうお話をさせて頂きました。雨水は集水桝から敷地外の側溝へ放流されていましたが、農作物への散水や水洗トイレの利用などに使えないか、また雨水タンクの設置や中水利用に関しても色々な質問が出されました。LPG、灯油、電気等の機器データや使用量・名板の読み方、冬期の凍結防止によるヒーターで消費電力量があがるLPG給湯器等は普段見ることのない死角となっていたようです。屋内では西日によって暖められたトイレの一室を肌で感じて頂き、サンルーム等の設置による無料の暖房効果については、特に関心があったようです。暖房時のサーキュレーター（扇風機）併用、コルクマットによる断熱効果、普段宿泊客では見られない厨房等、参加者による質問が多く寄せられました。

▼報告書作成

- 日時 平成21年3月下旬から
- 場所 京都事務所
- 参加構成 NPO法人エコロッジ協会助成事業推進委員

■ 具体的な成果

ウェブサイト上におけるオンラインチェックリストの構築は協会の資産であり、今後の普及啓蒙活動で重要な役割を果たすことになる。宿泊施設の運営内容を開示することに抵抗があるものの、洗い出しをした候補47軒中約1割の5軒が活動に賛同し、加盟して頂いたことは大きい。特に知床や小笠原等の遠隔地かつ自然遺産で知名度が高い場所における施設の加盟は今後の促進力になる。チェックリストの達成度はカテゴリ別と総合で表示され、一般の方に指標としての利用となり、協会会員は各項目の閲覧ができるようになった。英語ページでも参照できることになったことで、マレーシア、スリランカ、ハワイ、韓国からの問い合わせが相次いだ。今後は日本だけに留まらず、アジアにおいて中心的な役割を果たすと共に国内での普及啓蒙活動に期待したい。

■ 当該事業の今後の方針

環境に配慮した運営姿勢を開示し、第3機関に登録認定することに同意する施設が増えてきていることはとても望ましい。登録施設が増加することで、認定制度への関心が高まることが期待される。オンラインチェックリストの日本語版が出来たことで、英語版への応用が安易となった。日本人客を受入している海外の施設にも広報活動等に力を入れていきたい。

■ 成果の発表

エコロッジガイドライン普及啓蒙研修については日本財団の運営する無料ブログサイトで公開している。【<http://blog.canpan.info/ecolodge/>】

■ 特記事項

炭素排出量相殺費は沖縄を除いて飛行機を使わず鉄道とバスを主に移動したことで、申請額の1割以下でまかなうことができたが、実際の植林活動を通ず算出方法が京都府内になかったことが悔やまれる。今後は宿泊に関わる排出量の算出と意外に相殺費が低いことも含めて普及啓蒙につなげたい。